

5年ぶり5回目の社会人チャンピオン

「日本一」をかけ、1月3日ライスボウルで戦います

いつもオービックシーガルズを応援いただき、誠にありがとうございます。

オービックは、2010年秋季リーグ戦の準決勝「ファイナルステージ」では鹿島ディアーズに延長戦の末勝利し、続く社会人選手権「JAPAN X BOWL」ではパナソニック電工インパルスを終盤の逆転で下し、5年ぶり5回目の社会人リーグ優勝を果たしました。

準決勝の鹿島戦は序盤から終始劣勢の展開で、最後の最後に追いつき逆転するという試合で

した。また、決勝のパナソニック電工戦は、終盤にミスから逆転を許したものの、もう一度ひっくり返し、勝利を手繰り寄せました。いずれの試合も、応援して下さる皆様からの、ものすごい大声援という後押しを受けて、選手たちは集中力を途切れさせることなく戦い抜き、勝ちきることが出来ました。

明けて1月3日(月)に行なわれる日本選手権「ライスボウル」に、オービックは社会人リーグ代表として出場し、先に行なわれた大学選手権「甲子園ボウル」の優勝チーム、立命館大学パンサー

オービックシーガルズ
社長兼GM
並河 研



ズと「日本一」をかけて対戦いたします。

目標の「日本一」まで、あと1勝となりました。引き続き、さらなるご支援、応援を何卒よろしく願ひ申し上げます。

第64回ライスボウル
2011年1月3日(月) 東京ドーム 14:00 キックオフ
オービックシーガルズ vs 立命館大学パンサーズ
【テレビ放送】
NHK 教育テレビ 2011年1月3日(月)14:00～試合終了まで【生中継】
スカイ・A 2011年1月3日(月)20:00～24:00【録画中継】

土壇場の逆転劇でついに頂点へ

第24回 JAPAN X BOWL 12月20日(月)東京ドーム
vs.パナソニック電工インパルス

宿敵を下し5年ぶり社会人日本一 オービック20-16 パナソニック電工

第1Q、パナソニック電工に自陣奥深くまで攻め込まれますが、残り3ヤードで辛くも阻止。FGで3点を先制されました。

第2Q、3rd ダウン敵陣6ヤードからRB#20古谷(拓)のランプレーでエンドゾーンに迫ります。わずかに残った1ヤードをQB#6菅原が自らボールを体ごと捻じ込みTD。TFPのキックはブロックされてしまいましたが、6-3と逆転。さらにTE#95韓へのパスで7点を追加して前半終了。

後半に入ってもディフェンス陣が活躍し、DL#11ジャクソンが3rd ダウンを阻止するQBサックを決めるなど、随所に光るプレーを見せます。しかし、3Qに1本、そして4Q開始早々にも1本のFGを決められ、追撃を受けます。

13-9で迎えた第4Q残り約8分からのオービッ

クの攻撃シリーズ、1st ダウンで投げられたパスをパナソニック電工ディフェンスがパスインターセプト。そのままエンドゾーンまで持ち込まれTD。13-16と、オービックはついに逆転を許します。

直後の攻撃シリーズ、WR #85萩山の18ヤードレシーブを皮切りに、4回連続でダウンを更新し、レッドゾーンへと進みます。そして最後はQB菅原が、RB#21杉原ヘスクリーンパス。杉原はブロックをうまく使ってエンドゾーンに到達し、試合を決める大きなTDを奪いました。そして、残り約3分から始まった相手攻撃を、ディフェンス陣が4th ダウンまで追い込み、最後はLB#9塚田がパスをインターセプトし、勝利を掴みました。

最終スコアは20-16。オービックシーガルズが5年ぶりの社会人日本一を決めました。



RB#21杉原が決勝TD



5年ぶり5回目のJXB制覇



大声援を送る満員のオービックスタンド

ファイナルステージ準決勝 12月5日(日)川崎球場
vs.鹿島ディアーズ

激闘を制しJAPAN X BOWL進出へ オービック28-21 鹿島

第1Q、鹿島にFG隊形からスペシャルプレーを敢行され先制のTDを許します。さらに第2QではFGをブロックされ、そのボールをリカバーされるとリターンTDを献上。悪い流れの中で、前半終了間際にQB#6菅原からWR#83清水へのTDパスが決まり後半へと望みをつなぎます。

第3Q、鹿島にまたもやTDを許しリードを広げられますが、この苦しい状況を打破したのはWR#85萩山のプレーでした。自陣43ヤードで迎えた3rd ダウン、相手陣40ヤード付近でパスを受けた萩山はランアフターキャッチでそのまま一気にエンドゾーンまで駆け抜けます。

第4Q終盤、セーフティを喫し点差が7点となりますが、ディフェンス陣が意地を見せ攻撃権を

奪取すると、WR萩山へのパス、QB菅原のキープランなどで相手陣内へ攻め入ります。最後はRB#20古谷(拓)のダイブプレーでTDを獲得。試合残り時間1秒で同点に追いつき、勝負の行方はタイブレークへ。

タイブレークで先攻となったオービックは、QB#6菅原からRB#20古谷(拓)へのTDパスを決め後攻の鹿島へプレッシャーを掛けます。観客席の大声援を受けたディフェンス陣は、鹿島の1st ダウン、2nd ダウンのランプレーを封じ、ほとんどゲインを許しません。3rd ダウンで、DL#12カール・ノアがパスインターセプトを決め試合終了。激闘を制したオービックは5年ぶりにJAPAN X BOWLへの進出を決めました。

ゲームMVP (コーチ選出)



Offense MVP
QB#6 菅原 俊

パス31投23回成功(成功率74%)、205yds、2TD、70ydsの再逆転ドライブを成功させた。



Defense MVP
LB#2 古庄直樹

豊富な運動量でボールキャリアーにアタックし続け、タックルリーダーに。1ロスタックル、2QBサック。



Defense MVP
LB#9 塚田昌克

ロスタックル、ハリー、QBサック、ファンブルフォース、インターセプトと、数々のビッグプレーを披露。



Kicking MVP
RB#34 太田尚希

キックオフリターンで2つのビッグヒットをマークするなど、キッキング全般で献身的なプレーを重ねた。

ゲームMVP (コーチ選出)



Offense MVP
QB#6 菅原 俊

パスで446ヤード/2TDを獲得。残り1秒で同点とした92ヤードドライブでの冷静なプレーは圧巻。



Offense MVP
WR#85 萩山竜馬

8キャッチ 197ヤード。キャッチ後のランによって、独走TDをたたき出し、窮地を救うゲインを獲得した。



Defense MVP
DL#12 カール・ノア

要所で激しいタックルを披露し、相手のビッグプレーを阻止した。タイブレークのインターセプトは値千金。

※ Kicking MVPは選出せず

メインスポンサー

システムインテグレータの **オービック**

オフィシャルスポンサー



オービックシーガルズ マンズリーレポート12月号

発行人/並河 研
編集/渡部滋之
制作・デザイン/高木慶太
文/渡部滋之、佐野裕文、藤川了輔
発行/株式会社OFC
〒275-0024 千葉県習志野市茜浜3-6-3
tel: 047-452-2224
http://www.seagulls.jp